

## 情報法学入門第2回

### 情報法学の視野

未だに学会が成立していない

- 1 情報の生産、流通、処理（それぞれ人により解釈が異なるが）の各段階に置ける情報の役割に着目して分析する。
- 2 情報の流れ(flow)と蓄積(stock)を考察する
- 3 「情報の送り手」と「情報の受け手」

### 知的財産権

「情報」が対象 しかし、全ての「情報」が財産になるとは限らない

### 財産権

例) アパートを借りている場合

所有権 大家さん

占有権 借りている人

#### 1 情報の特性

占有（実力を持って支配）が不可

無限に伝播する 公共財になる

複製が容易（特に、デジタル情報は複製しても劣化しない）

#### 2 近代性が用意した財産権

民法上の財産権	┌	物権：物と人との関係	ex.所有権
		債権：人と人との関係	ex.契約

有体物 物権の対象

無体物 民法上の財産権の対象にならない

#### 3 知的財産権の種類

特許権・発明 アイディアの保護

実用新案権

意匠権：意匠

商標権：商標 信賴（ブランド）の保護

半導体のレイアウト：レイアウトの保護

種苗法：植物の新品種

著作権：著作物 表現の保護

#### 4 著作権の概略

著作権 ころころ変わるので最新のものに目を通しておいたほうが良い

##### (1) 保護の対象

表現 × アイディア 表現は保護されるがアイディアまでは保護されないことに注意。  
創作性

##### (2) 著作権者の権利

著作権

└─ 著作者人格権  
└─ 著作者経済権 (狭義の人格権)